

## 大雨による運転見合わせで駅は大混乱!

### **【社員応援】よりも【野球応援】を優先!**

11月2日、東海道・山陽新幹線は大雨による運転見合わせにより、多くの運転休止や大幅な遅延が発生して、新大阪駅のコンコースやホームは身動きが出来ないぐらいの状態になりました。

同じ11月2日、京セラドーム大阪で社会人野球日本選手権大会のJ R 東海の試合があり、関西支社各職場の社員や関連会社の社員は応援（動員）に行っていました。非番のサービック第二事業所福田副所長（J R 東海からの出向）も、社員が超勤や休憩なしで対応しているにもかかわらず、「野球に行く」と言って早々に職場を後にしました。

大幅なダイヤ乱れが発生した場合は、休みの管理者を呼び出したり、関西支社課員が新大阪駅においてお客様対応を行います。しかし、11月2日は野球応援があったために職場（社員）への応援は十分なものではありませんでした。そのため、新大阪駅社員は昼食や休憩も取れずにお客様の対応を行っていました。

## 大雨によるダイヤ乱れは予測できたはずだ!

### 繰り返されるダイヤ乱れに対する不十分な対策

11月2日は、台風21号から変わった低気圧により、西日本は大雨に厳重な警戒が必要でした。天気予報通り、東海道・山陽新幹線は大雨により大幅なダイヤ乱れが発生しました。11月2日の野球応援は大分前から決まっていたかもしれませんが、大雨災害に警戒するように呼びかけられている状況において、直ぐに呼び出しに対応出来るようにしておかなければなりません。呼び出しは9時40分に出ています。J R 東海の試合は10時からでしたので、野球観戦（応援）をやめれば十分呼び出しに対応できたはずでした。

11月7日、J R 東海は、毎年実施している「東海道新幹線総合事故対応訓練」を約700名が参加して行っています。今年度は、巨大地震発生を想定した復旧訓練や酷暑時に停電が生じた際の対処など、自然災害や近年激甚化する異常気象に対する備えに取り組んでいます。しかし、訓練も必要ですが、訓練で得た知識・技能を生かすのは現場（職場）です。まず、現場（職場）に向かうことからです。野球応援を優先せずに、すぐに現場（職場）に向かい職場の社員を応援するべきでした。

J R 東海は、昨年8月15日の台風7号に伴う計画運休実施、および翌16日の静岡地区での大雨の影響による翌17日にかけての列車の運休・遅れについて検証をして、検証結果を国土交通省に報告しています。そのなかで「新大阪付近での列車の集中を回避できなかったこと」を検証して「今後の対応」を出しています。しかし、11月2日の「新大阪付近での列車の集中を回避できた」とは言えない従来通りの事象が発生しています。